（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和３年３月 26 日

県立平塚工科高等学校長

令和２年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 24 日実施）	総合評価（３月 26 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①科学技術教育に関する感性を醸成させ、幅広い教養・技能・技術を身に付けさせる。 ②生徒一人ひとりに見合った指導を工夫し、基礎学力の定着と学力向上を図る。	①各系の連携を深め、生徒の関心・意欲を高める事業を拡充して資格取得を促進する。 ②G suite 等を積極的に活用して、学習習慣の定着の充実を図る。	①大学との連携により、上級学校の授業を体験することで、科学技術教育に関する感性を醸成させる。 各系の連携を強化し、資格取得の促進を図る。 ②日ごろの授業の課題等を作成する G suite の研修・活用を行い、生徒の家庭学習を促す。	①大学進学者希望者のニーズに対応できているかを、報告書から理解度を確認する。 生徒の資格取得率増加状況。 ②G suite 等の研修会の実施状況。また、生徒が活用して課題等を提出し学習習慣の定着が図れたか。	①コンソーシアムを利用して湘南工科大学と神奈川工科大学で出前授業を実施した。資格試験は数が絞られ、３年生を優先して取得させた。 ②G Suite の活用について職員研修を実施。また、家庭での学習や連絡に生徒のスマホ等端末を利用した学習を展開した。	①コロナの影響により上級学校訪問や体験等はほぼ実施不可となった。来年度は再開を目指したい。また、オンラインでの体験等も視野に入れたい。 ②日ごろの授業での積極的な活用を目指し、研修やマニュアル作成、また情報交換を実施して利用を促していく。	①来年度も大学側は訪問等の受け入れには制限がかかり難しい状況にあるが、高校への出前はいくらでも対応可能である。ぜひ積極的にコンソーシアム・出前授業を実施してもらいたい。 ②新型コロナウイルス感染症のまん延により、授業の形態も変化していくのは必然。ネットの活用など、組織的に取組んでよりよい変化に対応してもらいたい。	①上級学校訪問が不可となった中で、大学をお招きして出前授業を実施できたことは、生徒の関心・意欲を高め、科学的好奇心を引き出すのに効果的であった。資格試験が絞られる中で、全ての受検を希望する生徒の要望に応じることが出来なかった。 ②G suite の活用が始まって、家庭学習だけでなく校内でも無線ＬＡＮを活用して普段の授業を変える取組をスタートすることが出来た。教員による個人差が大きいところが課題である。	①県内の大学をはじめ、上級学校との連携でコンソーシアム事業の進展を図る。特に出前授業は教育的効果が高いと思われる。 資格取得に関しては、関係団体と協議してその機会をなるべく確保するとともに、校内で講習会等の実施の拡大も検討する。 ②無線ＬＡＮ環境の整備や Chromebook の配備に伴い、授業での G suite 等のＩＣＴ活用に視点を当てる。そのためのマニュアルの整備や研究授業・研修会の実施を検討する。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①基本的な生活習慣や社会の行動規範等の一般常識を持った人材を育成する。 ②教育相談体制を充実させ、生徒一人ひとりの個に応じた支援体制を構築する。 ③部活動や委員会活動を活性化させ、責任感やコミュニケーション能力などの人間性を育む。	①きめ細かな指導による挨拶の励行や交通マナーの向上を図る。 ②効果的な支援が行えるよう組織的な相談体制の充実を図る。 ③部活動入部率の向上を図り、学校行事と合わせ、活気ある学校づくりを進める。	①定期的な集会や校内外巡視指導などを通じて挨拶を励行し、交通マナーの指導を図る。 ②教育相談コーディネーターを中心とした相談体制の整備。外部機関との連携によって課題に対応できる体制の構築。 ③部活動オリエンテーション等を通し、部活動への関心を高める。各委員会と学校行事の関連をより強めた活動をする。	①挨拶をする生徒が増加したか。交通事故の件数や苦情の件数の減少状況。 ②多様な生徒に対して効果的な支援を行うことができたか。（教育相談やケース会議の実施状況） ③部活動の加入率は前年度より向上したか。 委員会活動の実施回数と内容の状況。	①９月に自転車の運転に関する指導を各学年に対して実施した。学年指導を中心に挨拶を励行させた。 ②コーディネーターを中心に教育相談を実施して生徒情報を共有した。ケース会議は５回実施。 ③新入生に担任やオンラインでの部活動勧誘等を実施して、部活動加入率は 66.8%と高くなった。 平工祭を一般非公開で実施した。	①耐震工事に伴い３年度も途中での通学路の変更が予定されており、その安全対策が必要とされている。 ②コロナの影響で心理的に不安を感じている生徒への対応を強化する。ケース会議による情報の共有化を推進する。 ③部活動加入率は増加したが、入学生の減少による加入者数の減少に対応する必要あり。 平工祭含めた諸行事の活性化も生徒減少下での課題である。	①近隣では確かに自転車通学の生徒のルールやマナーは守られていない。耐震工事によって裏側を通る自転車の指導が必要である。 ②新型コロナウイルス感染症の影響により不安を感じている生徒は必ず存在する。ケース会議など職員間で個別に情報提供して丁寧な対応を願う。 ③部活動加入率が上昇したのは非常に良いことである。高校では生徒が何かを一生懸命に打ち込むことが出来るものを提供してもらい、その機会を作ってほしい。平工祭は中学生が見ることが出来るようにしてほしい。	①臨時休校から分散登校と平常の学校活動が出来ない中、挨拶の励行をしっかりと伝えることはできた。登下校のルール・マナーについては苦情も多く、課題が残った。 ②入学時より何らかの障害や問題を抱えた生徒が多く在籍し、年間を通してケース会議等で情報の共有は図れた。インクルーシブな視点にたった教育は依然不足している状況である。 ③６月からの教育活動で新入生が多く部活動に加入したことは成果と考えられるが、例年の勧誘活動が出来ない中での結果であるので検証が必要である。平工祭を非公開でも実施したことは良かったが、来年度に向けてどうしていくか検討が必要。	①登下校のルール・マナー向上。特に自転車通学のマナー向上に対して効果的な手立てを打つ必要がある。どのような施策が効果的なのかを検討し、苦情にも対応する。 ②全職員の研修によって心理的に不安を抱えた生徒の理解と教育相談の充実を図る。研修や啓もう活動によるインクルーシブな視点にたった教育の推進を図る。 ③入学生の減少に対応した部活動活性策（入部率の大幅な増加）のために何が必要かの検討を行う。また、新型コロナウイルス感染症とともに生きる中でどのように各行事等を実施していくのかを検討して、学校の活性化を図る。
3	進路指導・支援	①生徒が主体的に進路決定に向き合えるように入学時から段階的に進路指導の充実を図る。	①学校生活の様々な機会を利用した進路教育の実践	①基礎的・応用的能力育成を目指し、進路指導教育の充実を目指す。 インターンシップ推進チームとして、インターンシップの受入先と参加生徒を拡充に向けた取組を推進する。	①基礎力診断テストの結果から基礎力・応用力の充実は進んだか。 受入先と参加生徒数を拡充することができたか。	①基礎力診断テストは遅れて実施。結果についてはまだ精査が出来ていない。 インターンシップは今年度中止となった。	①テストの結果から改めて検証したい。特にオンラインでの学びなおし学習の効果を検証し、新たな能力育成の方法を考えたい。 来年度の新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら企業と協力してインターンシップを実施したい。	①個別最適化されたオンライン学習や診断テストの実施がどれだけの効果を生むのか、また生徒の自学自習の意欲を生むものになるのかを検証してもらいたい。 職業体験ほか企業もオンライン化しているところが多くなっている。多角的な対応ができるようになってもらいたい。	①基礎力診断テストを実施しているが、日頃の成果の確認や学力差のある生徒への個別最適化の点でその効果に疑問が残った。また、進学への意欲を持たせる点でも成果が表れたのかについて疑問が残った。 インターンシップ等の経験が出来なかったことについては、令和３年度の就職指導に影響があるかを検証する必要がある。	①基礎力診断テストとオンラインでの学びなおし教材をリンクさせて、多様な学力の生徒への個別最適化を図るとともに、日頃の自学自習の成果が診断テストに現れ、自己肯定感を引き出す方向へ変更し、その成果を検証する。 各企業との調整を経て、できる限りインターンシップを実施して、多くの生徒に経験をさせることが必要である。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 26 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月 24 日実施）	成果と課題	改善方策等
		②上級学校への進学を見据えたキャリア教育を実践する。	②外部機関との連携や雇用状況を見極めながらよりきめの細かい進路指導を行う。	②地元企業やハローワーク等との連携を深め情操教育に努める。 進学希望者へのサポート体制を整える。	②ハローワークや地元企業との連携は進んだか。 進学者への適切なアドバイスができたか。	②就職希望者はほぼ全員が内定した。就職支援員の活用や希望者向けの説明会や面接練習を実施した。 進学希望者向けに進路説明会を実施。上級学校訪問や体験授業については実施できなかった。	②オンラインでの面接や就職試験への対応。またオンラインでの情報収集やコミュニケーションを活性化して、上級学校進学へのサポート体制を整える必要がある。	②「平塚工科＝就職」というイメージが非常に強い。就職に強いのは良いが、進学についてのイメージを持たれていない。実際には進学希望者へのサポート体制はあると思うが、それが外部から見えていないのは問題がある。	②就職については新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく希望者全員の内定を得ることが出来た。今後はオンラインでの企業訪問や就職試験への対応が課題となる。進学へのサポートでは、オープンキャンパスや体験授業への参加が出来ず、来年への不安材料となった。また、入試への変化に対応できなかった部分もあった。	②進学だけでなく、就職でも職場見学や就職試験にオンラインを導入する動きがみられ、それらに対応するための情報収集や研究が必要である。進学では希望者に対する早い時期からのサポート体制を構築して、進学をあきらめさせない体制を作り、進学もできるというイメージを持たれるようにしていく。
４	地域等との協働	①工業系専門高校として、ものづくり体験教室を始め、文化祭、学校へ行こう週間等での地域への公開で開かれた学校づくりを進める。 ②保護者や地域社会との協働により開かれた学校づくりをめざす。	①小・中学生のニーズに合わせ体験活動を魅力あるものにする。 ②ＰＴＡや地域と連携を通して、教育活動の推進に取り組むとともに、情報発信する。	①近隣の小・中学生に向けて、実習等の体験授業を実施する。 ②ＰＴＡや地域の方と連携した取り組みの実施とその情報発信。	①体験型授業を実施できたか。また授業を体験した小・中学生の意見・感想は好意的か ②連携した事業の実施状況およびそれを踏まえた地域連携部会等の意見。	①対象の体験教室は中止とした。代替の行事も計画していない。学校を公開する行事も今年度は開催なし。 中学校への出前授業を実施した。 ②今春からＰＴＡ及び地域と連携した取り組みはない。地域の防災拠点として避難所運営マニュアルを策定した。	コロナウイルス感染状況等を踏まえながら、来年度の事業開催について検討していく。 中学校へ工業高校を知ってもらう取り組みをさらに進める必要がある。 ②地域連携部会の意見を踏まえながら地域防災の拠点としての役割を検討していく。また、その情報発信を行う。	①今年度は仕方ないが、工業の魅力を中学生その他に伝えるために、復活してもらいたい。入学者が減少している事に関しては、しっかりと検証しＰＲイベントを考え受検者を増やすことを考えてほしい。 ②新型コロナ対策を行いながらの地域連携は何ができるのかを考え、新しい視点を持ちながら進めていってほしい。ＰＴＡ活動も同様。	①中学生向けの体験教室が実施できなかったことと、志願者の大幅な減少に関連性があるのかの検証が必要。一つの試みとして中学への出前授業は中学校側からの評価が高く、ニーズもあることが分かったが、受検者数の増加に資するかについては課題である。 ②ＰＴＡ活動・地域連携両面とも活動が停滞した。地域連携部会は１回の開催であった。避難所運営マニュアルが作られたが、今後は自治体・町内会との連携が一層必要である。	①出来る範囲での中学生向け及び地域児童向けの体験教室の実施を検討する。また、WEB による動画配信等を積極的に導入して工業高校をアピールする機会を増やす。中学への出前授業は継続可能な取組とするよう、方法について検討していく。 ②地域連携部会の開催によって活動を活性化する。特に地域の意見を聞き、協議する場面を作ることを検討する。防災については自治体との連携を強化して今後の方向性を探る。
５	学校管理 学校運営	①職員の働き方改革を推進し、活気に満ちた職場環境を創造する。 ②防災意識を高め、防災力を上げる。地域の防災拠点としての充実を図る。	①業務へのＩＣＴの積極的な導入を進め、働き方の改革を推進する。 ②防災教育を教育課程の一環として定着させ、地域とも連携した防災力を向上させる。	①コミュニケーションツールを導入し学年やグループ等の業務に利用する。 ②平塚市災害対策課の協力を得て、防災講演会および訓練体験やＤＩＧ（災害図上訓練）の実施。	①コミュニケーションツールの利用人数・グループ数。また、それによる業務改善状況。 ②防災訓練の実施状況はどうだったか。また、訓練および講演会への参加状況。	①業務に Teams を導入し、各グループ・学年の業務・情報交換に利用。校内ポータルと併用している。 ②８月末に防災避難訓練を実施。１月に津波防災訓練・ＤＩＧを実施した。	①Teams の業務一元化に向けた準備と職員へ研修等を実施して全員が利用できる体制を作る必要がある。 ②耐震補強工事中の災害対策について検討およびそれを見越した訓練を実施する。	①導入される新しいツールに合わせて事故防止に努めてもらいたい。オンライン会議等増えると思うが、その付き合い方も考える必要がある。 ②工事に伴う、生徒の登下校の動線等の再点検を事故防止の観点からお願いする。	①働き方改革の推進のため、新しいコミュニケーションツールを導入し、日々の業務に利用できた。また勤務時間管理システムも導入された。これらが働き方の変化に好結果を持たすかが今後の課題である。 ②津波防災訓練やＤＩＧを実施して防災に関して効果があった。防災教育のさらなる定着には課題が残った。	①Teams の活用をさらに推進して職員間の新たなコミュニケーションを広げる。またその利用が働き方改革に逆行しないよう検証する。あわせてセキュリティーの意識を高める研修を実施。 ②耐震工事が今後も続き、それに対応した安全対策と地震津波等の災害対策を検討して万が一に備える。